

# 知床の森から



1988. 9. 第1号

## クマゲラ巣立つ

昨年四月、ヘリコクター集材により択伐実行した、旧斜里事業区三一九林班に、今年もクマゲラが営巣し、無事三羽の雛が六月二二日巣立ちました。

このクマゲラは昨年択伐実行後の五月二八日に、営巣していることを確認したもので、今年も営巣するか注意していたものです。五月一七日に確認、巣立ちまでのあいだ観察し、写真撮影やビデオに録画し、六月二二日に最後の一羽が無事巣立ちました。

また、択伐跡地の他の野鳥について、有沢東大助手に調査していただき、アオジ・ツツドリ・キビタキ・ウグイス・ミヤマカケス・ヒガラ・ミソサザイなど一八種類を確認しており、探鳥会などで見られる種類と、大差が



三羽の雛に餌を与える熊のクマゲラ

ないとのことでした。

動物については、今年春以降択伐跡地で二、三頭のヒグマの足跡と糞を確認、エゾシカ・キタキツネ・エゾリス・シマリス・エゾモモンガーなどを目撃するなど、択伐前六十年十月から六十二年三月まで計六回、延べ百五十五人を費やして行った、野生動物調査とほぼ同じ種類が確認されています。択伐前に一部で心配された野生動物への影響は、ほとんどみられないようです。

## 若返る「知床」

六月一四日報道関係機関を対象に、昨年四月に択伐した知床国有林(三一九)を案内しました。参加した報道関係機関、新聞社九社、テレビ関係五社であり、択伐後一年二カ月たった現地状況を実際に、見てもらったものです。

二十年前の択伐跡地には、トドマ



択伐後の天然更新状況を説明する小合所長

ツ・ミズナラ・シナ・キハダ等が良好に天然更新しているところや、今回の植栽地全体を見わたせる「アカゲラ台」で一伐採跡地の景観は以前とほとんど変わっていない」との説明や、択伐試験地内に植栽した、ミズナラポット苗の九七パーセントが活着して順調に生育しているようすや、天然のミズナラトドマツの稚樹も多数発生している様子など、択伐によって森林が若返っている状態を、眼前に見ていただいたことにより、択伐の効果や景観に十分配慮されていることを理解していただいたようでした。

## 都市子 雄大な知床の自然に歓声

斜里町主催の知床自然教室が、七月三十一日〜八月六日までの七日間行われ、知床森林センターからも、田口企画係長が講師として参加しました。

知床自然教室とは、斜里町で実施している知床百平方メートル運動参加者の子弟を対象に行われているもので、

子供達が知床国立公園内で野外キャンパス生活を通して、知床の自然のすばらしさを体験するというものです。

ラウス岳登山を一泊二日で行い、東京周辺の子供達三十一名が、岩尾別川と登山道周辺の森林観察を行いました。

山小屋での夕食後、森林教室を開き、森林の効用・木材の有効利用などについて指導しました。

日頃、森林や木材になじみのない都市の子供達は、雄大な自然に歓声をあげ、森林の働きや木の名前をメモしたり、エゾマツの大木を指差し、何年たったらあのように大きくなるの?あのような木が何本あったら家がでるの?とかの質問があり、子供達は自然と森林についての知識を得たことに喜びを感じていました。

## 広報「知床の森から」発行

知床森林センターの動きを知っていたため、「知床の森から」(題字、西川清二調査官書)を発行いたします。御愛読お願いいたします。

所長 小合信也